

## 大通寺

大通寺は 400 年の歴史を持つ仏教寺院であり、伝統的な芸術と建築の宝庫です。印象的な 2 階建ての門と落ち着いた中庭は、大手門通り沿いのにぎやかなお店から離れた静かなひとときを提供します。しかし、この施設のハイライトは、別館にある美術品です。

大通寺は 1602 年に京都の東本願寺の別院として創建され、その主な建物は 17 世紀半ばにまでさかのぼります。主な聖域は、以前は現在の京都にある、伏見城主の一部でした。1652 年から 1654 年にかけて、城主が住んでいた広大な別館(大広間)とともに寺院に移されました。移転は、彦根城の大名であり、将軍徳川秀忠(1579–1632)の親密な顧問である井伊直孝(1590–1659)によって後援されました。井伊家はその後何世紀にもわたって大通寺と密接な関係を維持しました。

別館を歩くことは、私立博物館を見学するようなものです。別館の金色のスライドパーティションには、有名な 17 世紀と 18 世紀の芸術家による絵画が飾られています。これらには、後に幕府の公式学派となった有名な狩野派の画家の狩野山楽(1559–1635)、狩野三雪(1589–1651)の作品が含まれます。ある小さな部屋には見事な虎のイラストが描かれたスタンディングスクリーンがあり、別の部屋には、最後の井伊藩主、井伊直弼(1815–1860)の娘である砂千代姫が使用した駕籠があります。